

高校生の自己意識に関する調査

2015年3月

趣 旨



ガールスカウト活動に参加する女子高校生、参加していない一般の女子高校生、男子高校生に対し自己意識調査を実施し、その結果を比較することで、ガールスカウト活動が少女の育成に与える効果を考察するとともに、ガールスカウト活動の実践が少女の育成に真に好影響を与えているのか検証する。



【調査の概要】

調査期間 2014年7月11日 ～ 9月8日

- 調査方法**
- 47都道府県ガールスカウト都道府県連盟に依頼
回答依頼数は高校生の団員の母数に按分
回答者の友人(ガールスカウト以外)の女子高校生1人、男子高校生1人に回答依頼を指示
 - 携帯電話を介した質問項目の送受信により回答

回答数 47都道府県より回答総数893人

【回答者の内訳】



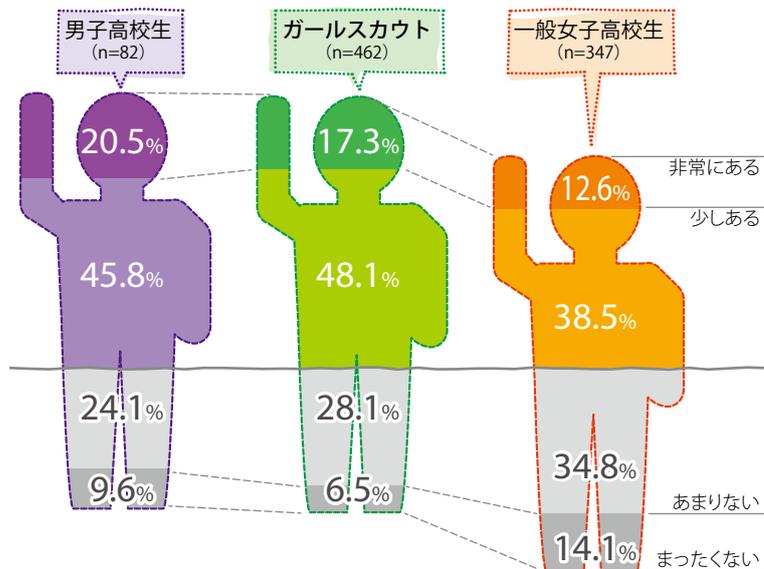
※ 本文中の「高校生」とは、上記ガールスカウト、女子高校生(ガールスカウト以外)、男子高校生の総数を表します。

調査結果 >>>

#01 あなたは学校や一般社会でリーダーになることがありますか。

ガールスカウトは リーダーになる機会が多い

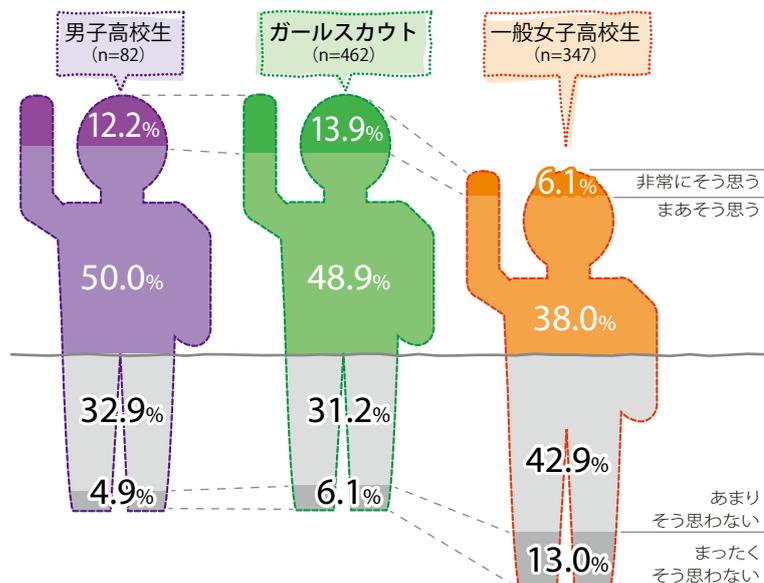
「リーダーになることがある」と回答した者は、男子高校生66.3%（「非常にある」+「少しある」）、女子高校生のうちガールスカウト65.4%、一般女子高校生51.1%である。女子高校生のうち、ガールスカウトは一般の女子高校生よりも「リーダーになることがある」との回答が14.3ポイント高い。



#02 あなたは学校や一般社会でリーダーシップをとりたいと思いますか。

ガールスカウトの多くは リーダーシップをとりたいと思っている

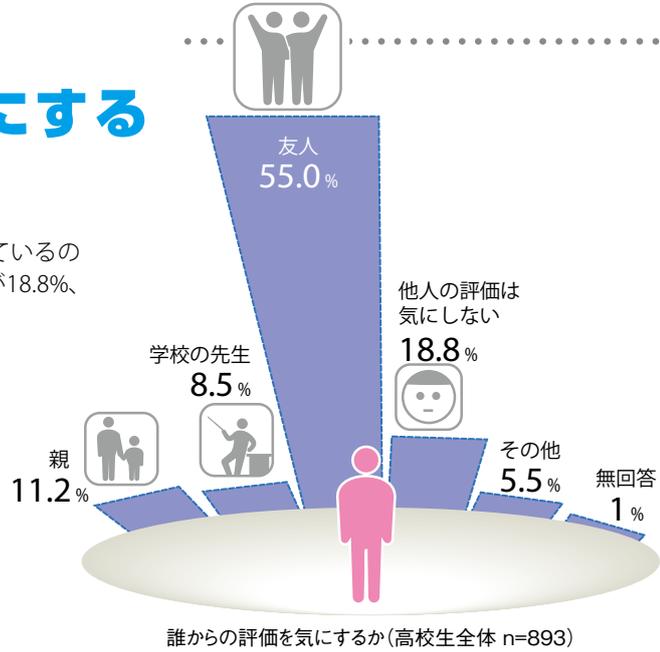
「リーダーシップをとりたい」と回答した者は、男子高校生62.2%（「非常にそう思う」+「まあそう思う」）、女子高校生のうちガールスカウト62.8%、一般女子高校生43.9%である。女子高校生のうち、ガールスカウトは一般の女子高校生よりも「リーダーシップをとりたい」との回答が18.7ポイント高い。



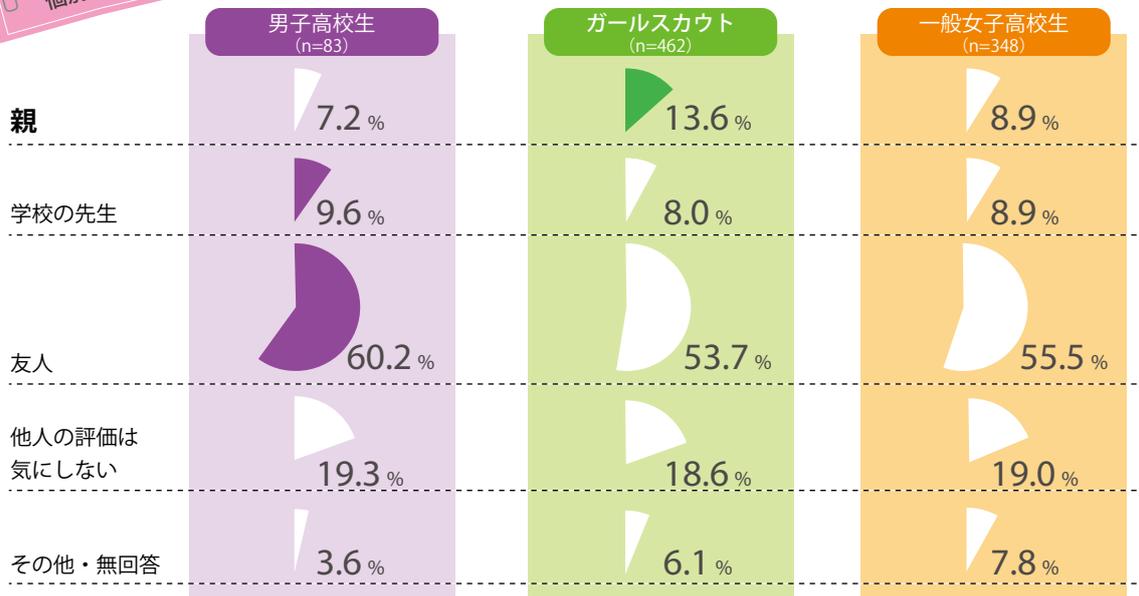
#03 あなたは誰からの評価を一番気にしますか。

高校生は友人の評価に敏感
**ガールスカウトは
 親からの評価も気にする**

全体として、評価を気にする相手として挙がっているのは、「友人」が55.0%、「他人の評価を気にしない」が18.8%、「親」11.2%の順である。



個別の回答



男子高校生、女子高校生(ガールスカウト、ガールスカウト以外、以下ガールスカウトをGSと表記)別に数字を見てみると、全体として、男子高校生も女子高校生のいずれも半数以上が友人の評価を気にしている。そのうち、ガールスカウトは、「親」の評価を気にする者が他よりも多い(男子高校生7.2%<GS以外8.9%<GS13.6%)。男子高校生は、女子高校生よりも「学校の先生」(GS8.0%<GS以外8.9%<男子高校生9.6%)、「友人」(GS 53.7%<GS以外55.5%<男子高校生60.2%)の評価を気にする傾向がある。

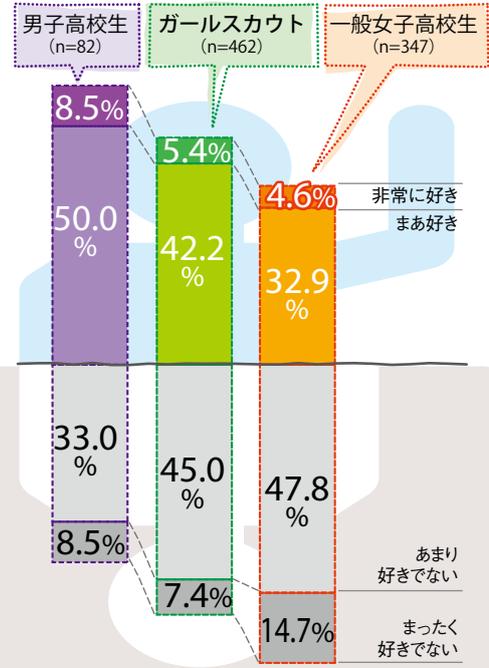
#04 あなたは今の自分が好きですか。

男子に比べて女子は「今の自分」が好きではないが ガールスカウトは より肯定的な回答が多い

男子高校生と比べて、女子高校生の自己肯定感は相対的に低い。男子高校生で好き(「非常に好き」+「まあ好き」と)の回答は58.5%、ガールスカウト47.6%、一般女子高校生は37.5%である。女子高校生のうち、ガールスカウトは一般女子高校生よりも「今の自分が好き」との回答が10.1ポイント高い。

「今の自分が好き」(「非常に好き」+「まあ好き」と)回答した者は、素の自分を受け入れ、自分のやりたいことをおこない、楽しく過ごしている。自分が好きなことが明確で、自分の考えをしっかりと持っていることが自己肯定感につながっている。

「今の自分が好きではない」(「あまり好きではない」+「まったく好きではない」と)回答した者は、理想の自分と現実の自分とが乖離していると言っている。また、「コンプレックス」などの自信のなさから「やりたいことが思うようにできない」などがあがる。



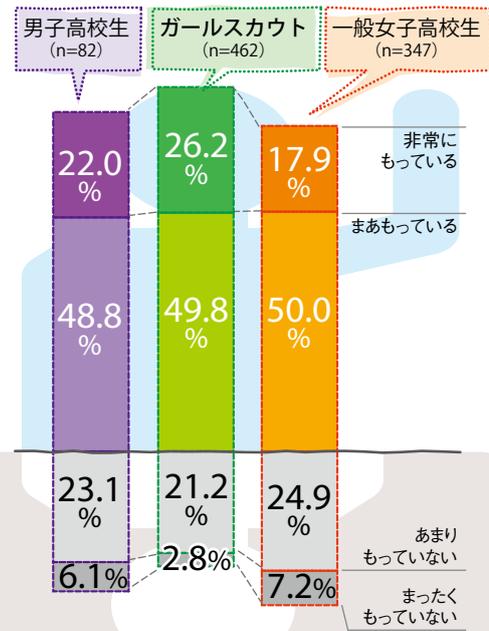
#05 あなたは自分の将来に希望をもっていますか。

ガールスカウトの4人に3人は 将来に希望をもっている

「将来に希望をもっている」(「非常にもっている」+「まあもっている」と)回答したものは、男子高校生で70.8%、ガールスカウト76.0%、一般女子高校生は67.9%である。女子高校生のうち、ガールスカウトは一般の女子高校生よりも「将来に希望をもっている」との回答が8.1ポイント高い。

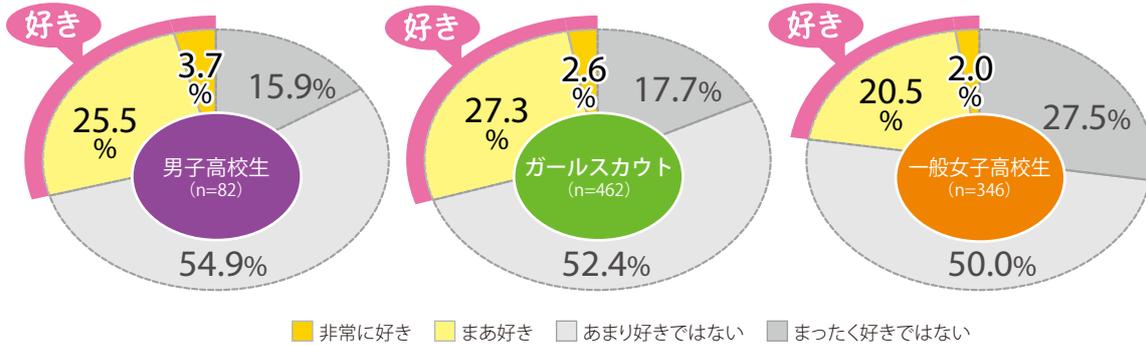
回答に対する理由を聞いたところ、「将来に希望をもっている」と回答した者は、将来の夢ややりたい職業などを挙げており、明確な目標があり、そこに向かっての努力や自分の能力への信頼などに依拠して、目標に到達できる道筋や可能性を得ていることが、将来への希望につながっていると思われる。

反対に、「将来に希望をもっていない」と回答した者の回答を見ると、明確な将来への目標をもっていない。また、「うまくやっていけるか」などの不安に関する記述が認められる。



#06 あなたは鏡や写真に写る自分の外見が好きですか。

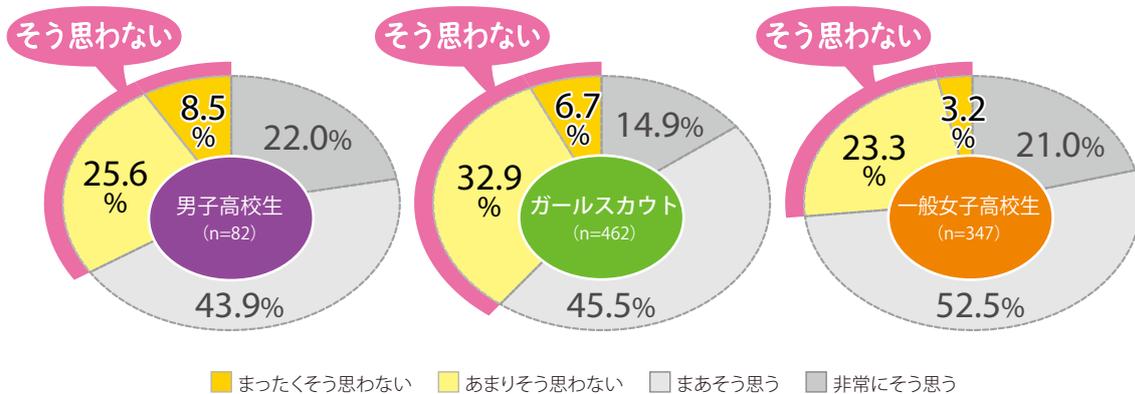
ガールスカウトでは
「外見が好き」との回答は約3割



「自分の外見が好き」（「非常に好き」+「まあ好き」と回答した者は、男子高校生で29.2%、ガールスカウト29.9%、一般女子高校生は22.5%である。女子高校生のうち、ガールスカウトは一般の女子高校生よりも「自分の外見が好き」との回答が7.4ポイント高い。

#07 人は、能力より外見で判断されると思いますか。

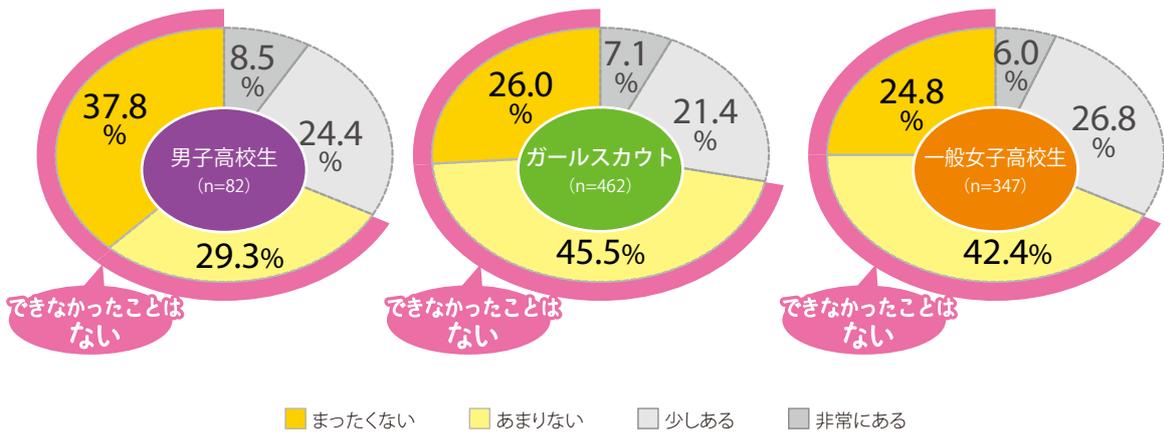
高校生の多くは「人は外見で判断される」と回答
ガールスカウトは
相対的に能力志向である



「能力より外見で判断される」（「非常にそう思う」+「まあそう思う」と回答した者は、男子高校生で65.9%、ガールスカウト60.4%、一般女子高校生は73.5%である。理由は、「第一印象は大切」、「かわいい子は得」というものである。ガールスカウトは、「能力より外見で判断される」との回答が他の女子高校生より13.1ポイント低く、能力志向である。

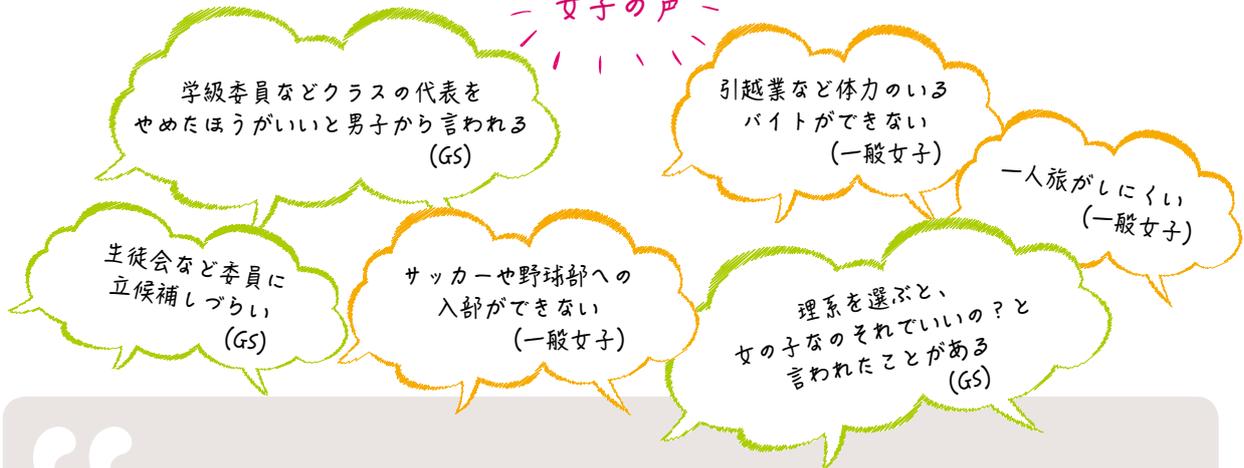
#08 女の子／男の子だからという理由で、やりたいことができなかったことはありますか。

ガールスカウトの多くは
「女子であること」にしばられない



「女の子／男の子だからという理由で、やりたいことができなかったことはありますか」(「非常にある」+「少しある」と回答した者は、男子高校生で32.9%、ガールスカウト28.5%、一般女子高校生は32.8%である。女子高校生のうち、ガールスカウトは、一般の女子高校生よりも「やりたいことができなかった」との回答が4.3ポイント低い。

女子の声

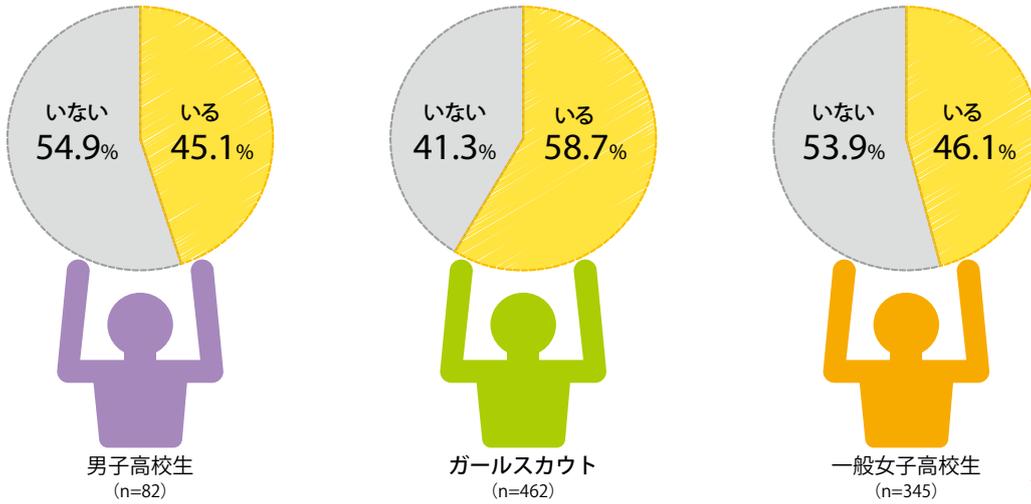


男子高校生で「男の子だからという理由で、やりたいことができなかったことがある」(「非常にある」+「少しある」)と回答した者の理由では、「ファッション選択肢」「レディーファーストで損をする」といった印象などの社会的通念、「高い曲を歌えない」などの生物学的差異が挙がる。

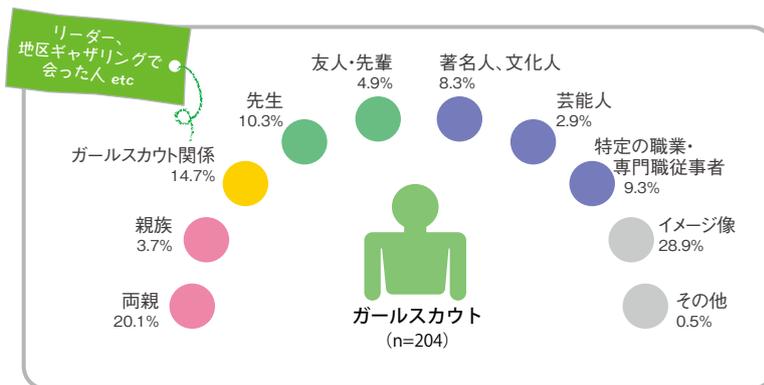
女子高校生のうちガールスカウトで「女の子だからという理由で、やりたいことができなかったことがある」(「非常にある」+「少しある」)と回答した者の理由で多いものは、役職の立候補などリーダーシップについてやスポーツの選択に関するもの、「理系学部の選択に対する疑問の声」や言葉づかい、門限など行動制限への言及がある。女子高校生のうち、一般女子高校生では、スポーツの選択、体力・力仕事に関わることと夜遊び・夜間に外を一人で歩くこと、などである。

#09 自分の将来を考えるうえで、こうなりたいというような、お手本になる人がいますか。

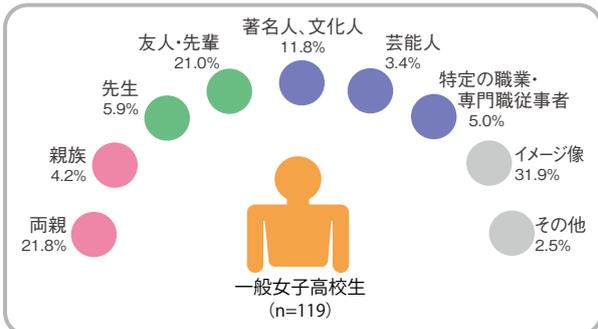
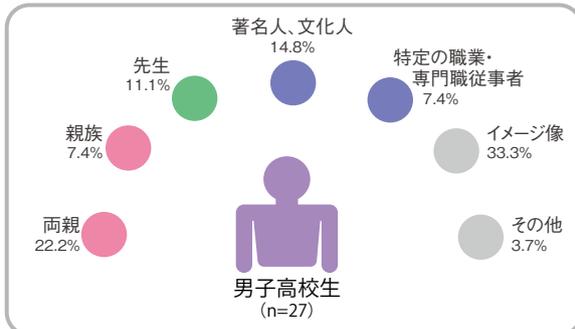
ガールスカウトの多くは 手本になる人がいる



「お手本になる人がいる」との回答は、男子高校生で45.1%、ガールスカウト58.7%、一般女子高校生は46.1%である。女子高校生のうち、ガールスカウトは、一般の女子高校生よりも「いる」との回答が12.6ポイント高い。

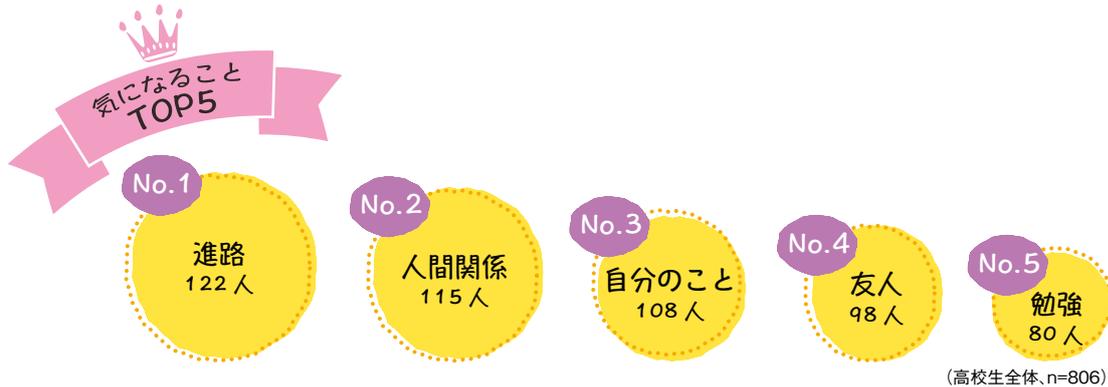


手本になる人としては、いずれも「両親」を上げる者が多く、「先生」「友人・先輩」が挙がっている。ガールスカウトでは、「ガールスカウトのリーダー」「ガールスカウトの友達」「ギャザリングで出会った人」など、ガールスカウトの仲間が、考えや行動様式を倣う同世代の身近なロールモデルとなっていることがわかる。



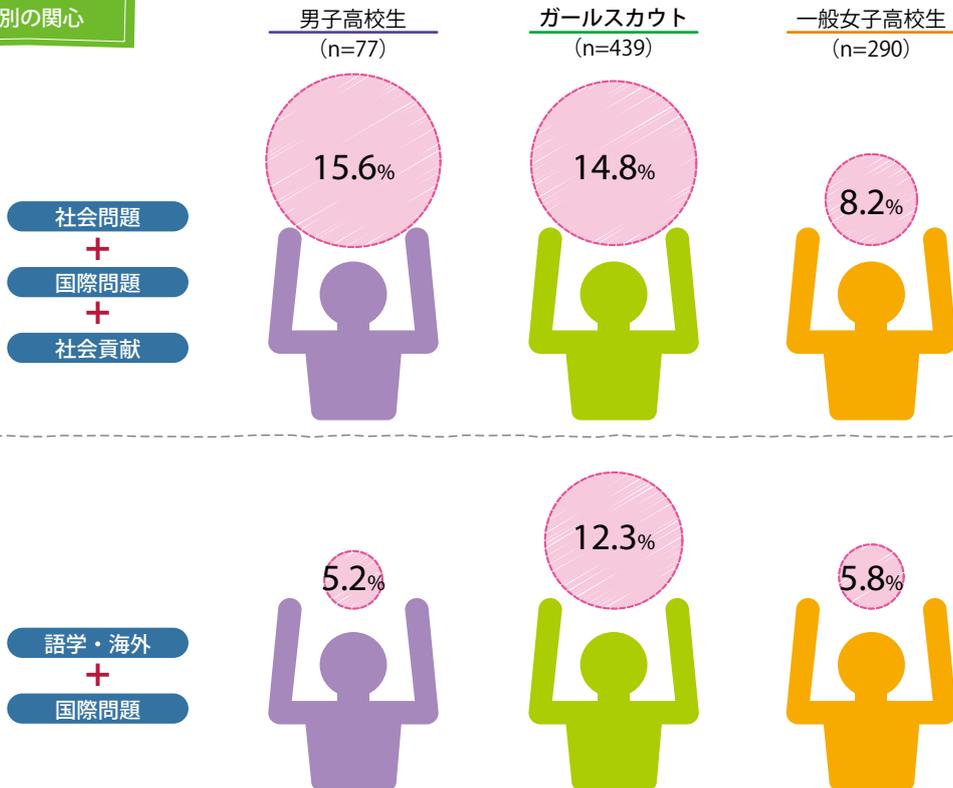
#10 一番関心のあること、大事なことは何ですか。

高校生の関心は身近な進路である大学
ガールスカウトはさらに
社会貢献にも関心がある



全体で、回答が多いのは進路に関する事で、122人である。次いで、人間関係115人、自分に関する事108人、友人が98人となっている。女子高校生のうち、ガールスカウトでは、国際問題37人、ガールスカウト活動18人、グローバル志向（語学・海外）17人、社会問題15人、社会貢献13人などの項目が多い。

個別の関心





1. ガールスカウト活動で獲得されるもの

今回の女子高校生の自己意識に関する調査結果について、ガールスカウト活動をおこなっている高校生とそれ以外の高校生を比較し、ガールスカウトに顕著なことがある。

リーダーシップ

ガールスカウトは、一般の女子高校生よりもリーダーシップをとる機会が多く、同時にリーダーシップをとりたいとも考えている者が多い。今回の調査では、男子高校生のサンプルが少なく、同様の比較は難しいものの、ガールスカウトの女子高校生では、多くの点で男子高校生と類似の行動様式や意識を持つ傾向が見られた。総じて、ガールスカウトは、ジェンダー・バイアスが少なく、自分の意志を持って活動している者が多いと思われる。

社会問題や国際問題への関心

高校生が一番関心を持っているのは、勉強や大学・将来などの身近な進路に関することであり、次いで仲間や友人、人間関係などが挙げられている。これに加え、ガールスカウトは、ガールスカウト活動や社会貢献、国際問題や社会問題などに関心を寄せていることに特徴がある。ガールスカウトは、ガールスカウト活動を通じこれらの社会的な事象へ視野が広がっていると考えられる。

2. ガールスカウトと親

高校生の多くは、手本とする人として父親や母親、あるいは両親を挙げており、高校生の身近なロールモデルは、主に親であることがわかる。ガールスカウトの特徴としては、この他、ガールスカウトのリーダー・先輩・友達などを挙げるものも多い。ガールスカウトの仲間や先輩など、ガールスカウト内部での人間関係は、同性・同年齢のロールモデルとして有効に機能していると考えられる。

一方、「誰からの評価を気にするか」という問いに関し、高校生の多くが「友人」と回答する中で、ガールスカウトでは、男子高校生やガールスカウト以外の女子高校生と比べて、「親」からの評価を気にする者が相対的に多いことがわかる。自我が芽生える思春期以降もガールスカウトを継続する者は、親に対し素直で従順である、もしくは、親と子どもとの価値観が一致し、意思疎通も良好であることが推測される。



3. ガールスカウトによる自己認識の醸成

自己肯定感

回答結果を見ると、ガールスカウトは、自分の外見が好きと回答する者が、男子高校生や一般の女子高校生よりも多く、自己肯定的であることがわかる。また同時に、「ひとは、能力よりも外見で判断される」と考える割合も他よりも低い。ガールスカウトは、他の高校生と比べて、努力に裏づけされた自己の能力への信頼が高いと推察される。

「今の自分が好き」と回答した者は、ガールスカウトでは約半数である。これに対し、男子高校生で自己肯定的な者は約6割である。ガールスカウトは、ガールスカウト以外の女子高校生よりは自己肯定的ではあると言えるが、男子高校生よりも自己肯定感が低い。

自己肯定的な者の傾向を高校生全体からみると、「性格が良い」「外見がよい」「成功体験あり」といった現状や経験を保有すると同時に、自分に自信があり、「現実を容認」ありのままの自分を「自己受容」し、「自分らしさを出す」ことが可能な状況にあり、「自分の意見を言える」など、自己表現も素直におこなっている。学校生活において勉強などでの成功体験があり、その成功に向けて相応の努力もおこなっているであろう。その他、「やりたいことが明確である」とことと、自分を肯定することとの間に関係があり、自分の好きなこと、やりたいことに努力を惜しまず、最終的に成功に至る体験によって自信を持つという正のスパイラルがあることが推測される。反対に、自己肯定的ではない者は、自分の思い描く理想と現実が乖離し、それに伴う自信のなさ、達成できない目標ゆえの自己否定がある。等身大の自分を理解し、容認するというプロセスが自己肯定には必ず必要なのであろう。

将来への希望

「将来に希望をもっている」との回答は、ガールスカウトでは76%にのぼる。その理由から推察すると、自分の将来への夢や希望を明確に持つことが、将来の希望を持つには重要であることがわかる。そのためには、具体的に自分が何をしたいのか、何になりたいのかを考える時間と機会が必要となる。

このような時間と機会を提供するエージェントとしては、手本となる人で挙げた者が大きな影響力を持つと思われる。手本として高校生の中で最も多く挙げたのが「親」であるとすれば、高校生は自分が何をしたいのか、何になりたいのか、といった情報を、親を通じて得ることが多いと推察される。このことは、親の持つ社会文化的背景が高校生の社会に関する知識や将来像の一定部分を規定していることを意味する。

一方で、ガールスカウトにあって、手本となる人にガールスカウトのリーダー・先輩・友人との回答が多いことは、ガールスカウト関係者がロールモデルや行動の準拠になっているということである。身近に自分の進路や将来を考えさせてくれる存在や、将来を考える時間・機会をガールスカウト活動は高校生に提供しているともいえる。

自己肯定感を持つために自分を見つめ直し、何をやりたいか将来への希望のために自己を省察するには、自己をふりかえり考える契機が必要である。そして、それを同年代の者との率直な意見のやりとりを通じ、他者を鏡に自分を規定していくプロセスが意味を持つものかもしれない。このことから、ガールスカウト活動は、高校生の自己肯定に至る自己認知と進路規定に少なからずプラスの影響を与えていると思われる。

国立教育政策研究所 岩崎 久美子





ガールスカウトは「資本家」

ガールスカウトの自己肯定感が高いことはこれまでの調査でも明らかになっており、「継続」的な体験学習が自己肯定感を高めることは度々紹介されている。女の子(同性)だけの集団で活動することが、挑戦できる分野や機会を広げたり、「女の子だから」という言い訳を取り除くことにつながり、ガールスカウトは少女たちの可能性と自信を高めてきた。

今回の調査では、以上の点を含め、10項目すべてにおいてガールスカウトの数値が一般高校生女子を上回った。ガールスカウト関係者には、「確かにガールスカウトにはそういう子は多い。」という実感はあるだろうが、これを「説明」する必要がある。ガールスカウトであると、「自分の将来に希望をもつ」少女が多いのはなぜか。「学校や一般社会でリーダーシップをとりたいと思う」こととガールスカウト活動はどんな関係があるのか。そして、それぞれの項目の間には何か因果関係があるのだろうか。その「理由」は次の一つの言葉で説明できるのではない。

「社会関係資本」という言葉がある。「人間関係資本」とか「ソーシャル・キャピタル」と言われることもあり、「人と人のつながりや信頼関係」を意味する。これは、地域社会における人々の生活を豊かにする「資本」となる。つまり、金銭やモノ、ヒトだけでなく、人との関わりの豊かさが、社会にとって必要な何かを「生産」する。例えば、社会関係資本が高いと言われるコミュニティでは、相互の信頼や協力が得られるため、治安がよい、児童虐待の発生率が低い、健康度合いが高い、子どもの教育成果が向上する等のよい影響がある。広い意味で、将来への展望や人生の満足度を高める作用があると言われる。

ガールスカウトに当てはめてみよう。ガールスカウトという集団は、ボランティア精神が高く、互いのために時間を使い、自分の所属する団だけでなく、地域を超えてつながりが強い。社会参加への意識も高く、ネットワークが人と人の間に長年にわたって蓄積されている、というように、社会関係資本が豊かな。社会関係資本の高い地域にいる人は、そうでない人と比べて、

コミュニケーション力など個人の力が高まり、その地域の外でも通用する「つながるチカラ」を個人として獲得するという。つまり、ガールスカウトに関わるといことは、そこに関わる人と自分の間に、つながりを通して資本が蓄積されていく。ガールスカウトに入って、人脈が広がったり、仲間のために何かをしようという気持ちが高まったり、価値観が広がったという実感をもつ人は多い。また、「地域社会との関連を持った教育内容であると、社会関係資本が蓄積される」とも言われる。そうすると、ガールスカウト活動自体が、少女の「つながるチカラ」を伸ばし、少女自身の可能性を多様に引き出す。

まわりの人を巻き込もうとするリーダーシップは、社会的な人とのつながりで重要な要素である。ガールスカウト活動の中で自己肯定感が高まり、自信が生まれ、地域貢献に関わる人とのつながりが、よい社会をつくるために自分も主体的に役割を果たしたいという意欲を高めるのだろう。また、ガールスカウトに参加することは、家族や学校以外の多様な年代・職業の女性と出会うことを意味する。人生の先輩に多く出会うことは、身近にロールモデルを複数もつことにつながる。また、ロールモデルの数は人生の選択肢が増えることを意味し、それだけその人の人的ネットワークが豊かということでもある。そんなふうには、社会関係資本に関するいろいろな要素は、因果関係というよりも、互いに関係し影響を与え合い、異なるチカラを伸ばしていく。

こうやって考えていくと、人のつながりや信頼関係が強い集団、なおかつ、社会との関わりを重視する活動内容をもつガールスカウトの少女の数字が一般に比べて高いのは、極めて自然なことなのかもしれない。子どもの頃にこのつながりの基盤を培うことで、大人になって学習活動や社会参画に積極的に関わり、豊かな経験を重ねる傾向が高まる。この動きの激しい時代においては、社会的な人とのつながりがもたらすものは、男性に比べて貧困に陥りやすい女性が、自立した人生を生きていくうえで、今後ますます重要なチカラとなるだろう。

ガールスカウト日本連盟 河合 千尋

【参考文献】

- 女の子はもっと伸びる(ガールスカウト日本連盟)
- ソーシャルキャピタルと教育システム(法政大学 高野良一)
- 社会関係資本と学力(大阪大学 志水宏吉)
- 平成22年度「教育改革の推進のための総合的調査研究」～教育投資が社会関係資本に与える影響に関する調査研究～報告書(株式会社三菱総合研究所)
- ソーシャルキャピタルとファンリテーション(特定非営利活動法人 日本ファンリテーション協会)

[執筆・分析協力]

岩崎 久美子 / 国立教育政策研究所総括研究官
三浦 恵子・山本 邦子 / 国立教育政策研究所スタッフ

発行者: 公益社団法人ガールスカウト日本連盟

<http://www.girlscout.or.jp/>